

平成30年(2018年)6月4日 (月曜日)

高校生4人三島で研修

国際地理五輪
日本代表表
楽寿園、大社など調査



国際地理オリンピックに向けて強化研修でフィールドワークする高校生2人。三島の楽寿園

第15回国際地理オリンピックに向けて、同日本委員会が3日、強化研修を三島市を会場に行った。

日本代表の男子高校生4人が市内のフィールドワークに取り組んだ。伊豆半島ジオパーク推進協議会が共催として運営に協力した。県内での強化研修は初めて。

同オリンピックは各国の高校生が地形、地質などの知見を競う。今大会は7月31日から8月6日までカナダ・ケベック州で「景観」をテーマに開かれる。日本代表は約1400

人の中から3次選抜を経て4人を選んだ。

強化研修は自然地理と人文地理の2人1組となつて各視点から踏査した結果をまとめて対策を練った。三島の特徴に「水」を挙げてジオ、エコ、人の3項目を重点に楽寿園、三嶋大社、旧三島宿、ゲラウンドワーク三島などを訪れ、ジオ、街道、湧水を調べた。

日本代表の佐藤光駿君(早稲田3年)は「メダルは取りたいが、世界の同世代との交流が楽しみ」と話した。

静岡大の山本隆太准教授を講師にワークショップを行った他、過去の大会参加者を交えて発表についても意見交換した。